

LATEX 2 ϵ 文典：補遺

生田誠三 著

最終更新日：平成 12 年 11 月 16 日

E-mail:edit@asakura.co.jp

- 「LATEX 2 ϵ 文典」で予告しました補遺の掲載をはじめます。
- 本来、出版と同時に掲載をはじめるべきところ、筆者の怠慢もありますが、朝倉書店でのネットワーク再構築の時期とも重なり今日まで遅れてしましましたこと御容赦下さい。
- 読者と筆者の間でネットワークを通してこのようなかたちで情報交換をすることは筆者にとって、また朝倉書店にとっても初めての経験であり、この思惑がうまく実現されるかいささか自信はありません。最善を尽くしたいとおもいます。
- なお、この情報は、テスト版であり些か不備の点ありやと思います。後日改定版を掲載します。
- 今後掲載する情報は次のとおりです。
 1. 「LATEX 2 ϵ 文典」の誤記の修正：何人かの読者から、またゼミの学生から幾つかの誤記が指摘されました。筆者自身も気づいた誤記があります。本書全体を精読し誤記を網羅的に修正し、近々、訂正個所を掲載します。
 2. 「LATEX 2 ϵ 文典」で割愛したトピックス：紙面の制約上、割愛を余儀なくされたトピックスが幾つかあります。すでに原稿もできていますので近いうちに掲載します。
 3. その他のトピックス：「LATEX 2 ϵ 文典」の執筆時には掲載を考えていなかったトピックスについて、改めて稿を起こして執筆・掲載します。
 4. ささいなことではあるが知ておくと便利なこと：LATEX 2 ϵ を使っていると、ささいなことではあるが知っていると大変に便利なことがしばしば発見されます。これらについては発見次第掲載します。
- 読者へのお願い
 1. 「LATEX 文典」に誤記がありましたら出版社宛にてメールにてお教え下さい。可能なかぎり速やかにお答えします。
 2. LATEX 2 ϵ に関する面白い情報がありましたら御教示下さい。
 3. 筆者から読者にご教示をお願いすることもあります。読者は、私が LATEX 2 ϵ の相当な使い手と思われるかもしれません、決してそうではありません。ときどきわからないことがあります（筆者は「LATEX 文典」の執筆資料として日本で発行されている LATEX 2 ϵ の書籍は書店で見つけ次第すべて入手しています）を参照しますが、それでも解決できないことがあります。

1 補遺：誤記の修正（テスト中）

近日配信

2 色の指定 (テスト中)

用語：色文字 色ボックス 配色 (GRAY・CMYK・RGB・HS モデル)

命令： \color \textcolor \colorbox \fcolorbox \definecolor \Ami (著者のマクロ) named

パッケージ： color



暫定版

2.1 色を指定する

[color]パッケージを宣言すると [→p.??(??)] , 様々な色が出力できます [→ [21] p.90-104] .

2.2 色文字 I

□ 色文字を出力する命令には二つあります。その一つが次の命令です（もう一つの命令は 2.3 節 (p.3) で述べます）。

《命令》 \color[]{ }

オプション引数 []については 2.12 節 (p.9) で述べます。

□ あるところで、たとえば \color{red} と宣言すると、それ以降の文字はすべて赤色で出力されます。ある所からこの赤色を青色に変更するには、そこで \color{blue} を宣言し、そしてまたある所から元の黒に戻すには、そこで \color{black} を宣言します。

□ 指定できる色は以下の 7 色です。

\color{red} 平方根 \$x=\sqrt{2}\$ \color{black} は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

\color{blue} 平方根 \$x=\sqrt{2}\$ \color{black} は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

\color{red} 平方根 \$x=\sqrt{2}\$ \color{black} は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

\color{blue} 平方根 \$x=\sqrt{2}\$ \color{black} は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

\color{green} 平方根 \$x=\sqrt{2}\$ \color{black} は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

\color{yellow} 平方根 \$x=\sqrt{2}\$ \color{black} は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

\color{magenta} 平方根 \$x=\sqrt{2}\$ \color{black} は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

\color{white} 平方根 \$x=\sqrt{2}\$ \color{black} は ... \Rightarrow は ...

\color{black} 平方根 \$x=\sqrt{2}\$ \color{black} は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

2.3 色文字 II

- 色文字を出力する命令には二つあります。その一つが次の命令です（もう一つの命令は 2.2 節 (p.3) で述べました）。

《命令》 `\textcolor[]{ }{ }`

オプション引数については 2.12 節 (p.9) で述べます。

- たとえば `\textcolor{red}{\sqrt{2}}` と宣言すると 2 番目の引数で指定された文字だけが赤で出力されます。

- 指定できる色は以下の 7 色です。

`\textcolor{red}{\sqrt{2}}` は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

`\textcolor{blue}{\sqrt{2}}` は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

`\textcolor{green}{\sqrt{2}}` は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

`\textcolor{yellow}{\sqrt{2}}` は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

`\textcolor{magenta}{\sqrt{2}}` は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

`\textcolor{white}{\sqrt{2}}` は ... \Rightarrow は ...

`\textcolor{black}{\sqrt{2}}` は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

2.4 色ボックス

- 色ボックスを出力するには次の命令を使います。

《命令》 `\colorbox[]{ }{ }`

オプション引数 [] については 2.12 節 (p.9) で述べます。

- 下に例を示します（ここで `\fboxsep=1mm` とする [→p.??(??)]）。

`\colorbox{red}{\sqrt{2}}` は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

`\colorbox{blue}{\sqrt{2}}` は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

`\colorbox{green}{\sqrt{2}}` は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

`\colorbox{yellow}{\sqrt{2}}` は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

`\colorbox{magenta}{\sqrt{2}}` は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

`\colorbox{white}{\sqrt{2}}` は ... \Rightarrow 平方根 $x = \sqrt{2}$ は ...

\colorbox{black}{平方根 $x=\sqrt{2}$ は ...} ⇒ [REDACTED] は ...

2.5 色ボックスに色文字

□ 色ボックス内に色文字を出力するには `\colorbox` 命令と `\textcolor` を併用します。

□ 下に例を示します（ここでは `\fboxsep=1mm` とする [→p.??(??)]）。

\colorbox{blue}{\textcolor{yellow}{abAB 日本}} ⇒ [REDACTED] abAB 日本

\colorbox{red}{\textcolor{black}{abAB 日本}} は ... ⇒ [REDACTED] abAB 日本 は ...

\colorbox{black}{\textcolor{white}{abAB 日本}} は ... ⇒ [REDACTED] abAB 日本 は ...

\colorbox{black}{\textcolor{white}{\bfseries abAB 日本}} は ... ⇒ [REDACTED] abAB 日本 は ...

□ 最後の 2 つの例は、いわゆる **白抜き** と呼ばれるものです。文字をボールド体 `\bfseries` [→p.??(??)] にすると白抜きが鮮やかになります。

2.6 色枠付きの色ボックス

□ 色枠の付いた色ボックスを出力するには次の命令を使います。

《命令》 `\fcolorbox[]{ }{ }{ }`

オプション引数 [] については 2.12 節 (p.9) で述べます。

□ 下に例を示します（ここでは `\fboxrule=1mm` [→p.??(??)] , `\fboxsep=1mm` とする [→p.??(??)]）。

\fcolorbox{blue}{yellow}{abAB 日本} ⇒ [REDACTED] abAB 日本

\fcolorbox{magenta}{green}{abAB 日本} ⇒ [REDACTED] abAB 日本

\fcolorbox{red}{white}{abAB 日本} ⇒ [REDACTED] abAB 日本

2.7 配色 (GRAY モデル)

□ これは、白を配色比率 1, 黒を配色比率 0, その中間の灰色を 1 と 0 の中間の配色比率で定義するモデルです（下の例ではすべて `fboxsep=1mm` としている [→p.??(??)]）。

□ その定義は次の命令で行います。

《命令》 \definecolor{ }{ }{ }

- たとえば配色比率を 0.7 とした灰色を Gray と定義し、この定義された灰色をボックスの色とし、そこにテキスト「AAA」を出力させるには次のようにします。

\definecolor{Gray}{gray}{0.7}
\colorbox{Gray}{AAA}

⇒ AAA

- その他の配色比率に対する灰色は次のようになります。

配色比率	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5	0.0
色具合	AAA						

- 実は、これは 網掛け と呼ばれるものです。本書の網掛けもすべてこれで行っています。下に、配色比率を 1.0 から 0.5 までを 0.05 刻みで減じた 11 例を示しておきます。必要に応じて使い分けて下さい（これを 0.5 以上にすると暗くなりすぎて網掛けの用はなしません）。

配色比率	1.00	0.95	0.90	0.85	0.80	0.75	0.70	0.65	0.60	0.55	0.50
色具合	AA										

下に、配合比率を #1、中に書くテキストを #2 とした網掛けのマクロ命令を示しておきます。

《命令》 \Ami{ }{ } (著者のマクロ命令)

```
\newcommand{\Ami}[2]{%
\definecolor{Grayf}{gray}{#1}
\colorbox{Grayf}{\rule{0em}{2ex}\rule[-0.8ex]{0em}{0ex}\hspace{0.1em}\#2\hspace{0.1em}}}
```

このマクロ命令で \rule 命令を使っている理由については ?? 節 (p.??) を参照して下さい。下に、このマクロ命令を使った例を示しておきます。

\Ami{0.6}{\sqrt{5}} \Ami{0.7}{\sqrt{5}} \Ami{0.8}{\sqrt{5}}

↓

$\sqrt{5}$

$\sqrt{5}$

$\sqrt{5}$

2.8 配色 (CMYK モデル)

- これは、■ (cyan)、■ (magenta)、■ (yellow)、■ (black) の四色をこの順に様々な配色比率で混合して色合成するものです。たとえば (ここでは \fboxsep=1mm としている [→p.??(??)])。

\definecolor{Cmyk}{cmyk}{0.44,0.00,0.74,0.00}
\colorbox{Cmyk}{AAA}

⇒ AAA

- 黒に対する4番目の比率は黒ずんだ色にするものです。たとえばこれを0.20にすると次のような色になります。

```
\definecolor{Cmyk}{cmyk}{0.44,0.00,0.74,0.20}
\colorbox{Cmyk}{AAA} => AAA
```

- これら四色のそれぞれを単色で出力すると次のようにになります。

配色比率	<u>0.0</u> ,0,0,0	<u>0.2</u> ,0,0,0	<u>0.4</u> ,0,0,0	<u>0.6</u> ,0,0,0	<u>0.8</u> ,0,0,0	<u>1.0</u> ,0,0,0
色具合	AAA	AAA	AAA	AAA	AAA	AAA
配色比率	0, <u>0.0</u> ,0,0	0, <u>0.2</u> ,0,0	0, <u>0.4</u> ,0,0	0, <u>0.6</u> ,0,0	0, <u>0.8</u> ,0,0	0, <u>1.0</u> ,0,0
色具合	AAA	AAA	AAA	AAA	AAA	AAA
配色比率	0,0, <u>0.0</u> ,0	0,0, <u>0.2</u> ,0	0,0, <u>0.4</u> ,0	0,0, <u>0.6</u> ,0	0,0, <u>0.8</u> ,0	0,0, <u>1.0</u> ,0
色具合	AAA	AAA	AAA	AAA	AAA	AAA
配色比率	0,0,0, <u>0.0</u>	0,0,0, <u>0.2</u>	0,0,0, <u>0.4</u>	0,0,0, <u>0.6</u>	0,0,0, <u>0.8</u>	0,0,0, <u>1.0</u>
色具合	AAA	AAA	AAA	AAA	AAA	AAA

2.9 配色 (RGB モデル)

- これは、■(red), ■(green), ■(blue)の3色をこの順に様々な配色比率で混合し色合成するものです(下の例では\fbboxsep=1mmとしている[→p.??(??)]). は。

```
\definecolor{Rgb}{rgb}{0.7,0.6,0.9}
\colorbox{Rgb}{AAA} => AAA
```

- このモデルでは、比率を{0,0,0}にすると黒となり、{1,1,1}にすると白となります、

- 下にこの2つのケースを対比した例を示します。

\definecolor{Rgb}{rgb}{0.7, <u>1.0</u> ,1.0}	\colorbox{Rgb}{AAA}	AAA
\definecolor{Rgb}{rgb}{0.7, <u>0.8</u> ,1.0}	\colorbox{Rgb}{AAA}	AAA
\definecolor{Rgb}{rgb}{0.7, <u>0.6</u> ,1.0}	\colorbox{Rgb}{AAA}	AAA
\definecolor{Rgb}{rgb}{0.7, <u>0.4</u> ,1.0}	\colorbox{Rgb}{AAA}	AAA
\definecolor{Rgb}{rgb}{0.7, <u>0.2</u> ,1.0}	\colorbox{Rgb}{AAA}	AAA
\definecolor{Rgb}{rgb}{0.7, <u>0.0</u> ,1.0}	\colorbox{Rgb}{AAA}	AAA

<code>\definecolor{Rgb}{rgb}{0.7,<u>1.0</u>,0.0}</code>	\Rightarrow	
<code>\definecolor{Rgb}{rgb}{0.7,<u>0.8</u>,0.0}</code>	\Rightarrow	
<code>\definecolor{Rgb}{rgb}{0.7,<u>0.6</u>,0.0}</code>	\Rightarrow	
<code>\definecolor{Rgb}{rgb}{0.7,<u>0.4</u>,0.0}</code>	\Rightarrow	
<code>\definecolor{Rgb}{rgb}{0.7,<u>0.2</u>,0.0}</code>	\Rightarrow	
<code>\definecolor{Rgb}{rgb}{0.7,<u>0.0</u>,0.0}</code>	\Rightarrow	

□ 下に青，赤，黄色それぞれの単色の例を示します

- `\definecolor{BLUE}{rgb}{x,1,1}`

配色比率 x	<u>1.0</u> ,1,1	<u>0.8</u> ,1,1	<u>0.6</u> ,1,1	<u>0.4</u> ,1,1	<u>0.2</u> ,1,1	<u>0.0</u> ,1,1
色具合	AAA	AAA	AAA	AAA	AAA	AAA

- `\definecolor{RED}{rgb}{1,x,1}`

配色比率	1, <u>1.0</u> ,1	1, <u>0.8</u> ,1	1, <u>0.6</u> ,1	1, <u>0.4</u> ,1	1, <u>0.2</u> ,1	1, <u>0.0</u> ,1
色具合	AAA	AAA	AAA	AAA	AAA	AAA

- `\definecolor{YELLOW}{rgb}{1,1,x}`

配色比率	1,1, <u>1.0</u>	1,1, <u>0.8</u>	1,1, <u>0.6</u>	1,1, <u>0.4</u>	1,1, <u>0.2</u>	1,1, <u>0.0</u>
色具合	AAA	AAA	AAA	AAA	AAA	AAA

2.10 配色 (HSB モデル)

□ これは，色相 (hue : 色の種類)・彩度 (saturation : 鮮やかさ)・輝度 (brightness : 明るさ) の配合比率をこの順に指定して様々な色を合成するモデルです (下の例では `\fboxsep=1mm` としている [→p.??(??)]) .

<code>\colorbox[hsb]{0.01,0.98,0.99}{AAA}</code>	\Rightarrow	
--	---------------	---

□ 彩度を 1，輝度を 1 とし，色相を 0 から 1 まで変化させた例を下に示します (`\rule` については [→p.??(??)] を参照) .

- `\colorbox[hsb]{x,1,1}{\rule{5.2mm}{0mm}\rule{0mm}{2mm}}`

X	0.00	0.05	0.10	0.15	0.20	0.25	0.30	0.35	0.40	0.45	0.50	0.55	0.60	0.65	0.70	0.75	0.80	0.85	0.90	0.95	1.00					
色相																										

□ 色相を 0，輝度を 1 とし，彩度を 0 から 1 まで変化させた例を下に示します .

```
• \colorbox[hsb]{0,x,1}{\rule{5.2mm}{0mm}\rule{0mm}{2mm}}
```

X	0.00	0.05	0.10	0.15	0.20	0.25	0.30	0.35	0.40	0.45	0.50	0.55	0.60	0.65	0.70	0.75	0.80	0.85	0.90	0.95	1.00
---	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

彩度



□ 色相を 0, 彩度を 1 とし, 輝度を 0 から 1 まで変化させた例を下に示します .

```
• \colorbox[hsb]{0,1,x}{\rule{5.2mm}{0mm}\rule{0mm}{2mm}}
```

X	0.00	0.05	0.10	0.15	0.20	0.25	0.30	0.35	0.40	0.45	0.50	0.55	0.60	0.65	0.70	0.75	0.80	0.85	0.90	0.95	1.00
---	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

輝度



2.11 67 色の標準色

□ color パッケージは下に示す 67 色を標準装備しています .

GreenYellow		Yellow		Goldenrod		Dandelion	
Apricot		Peach		Melon		YellowOrange	
Orange		BurntOrange		Bittersweet		RedOrange	
Mahogany		Maroon		BrickRed		Red	
OrangeRed		RubineRed		WildStrawberry		Salmon	
CarnationPink		Magenta		Rhodamine		Mulberry	
RedViolet		Fuchsia		Lavender		Thistle	
Orchid		DarkOrchid		Purple		Plum	
Violet		RoyalPurple		BlueViolet		Periwinkle	
CadetBlue		CornflowerBlue		MidnightBlue		NavyBlue	
RoyalBlue		Blue		Cerulean		Cyan	
VioletRed		ProcessBlue		SkyBlue		Turquoise	
Aquamarine		BlueGreen		Emerald		JungleGreen	
SeaGreen		Green		ForestGreen		PineGreen	
LimeGreen		YellowGreen		SpringGreen		OliveGreen	
RawSienna		Sepia		Brown		Tan	
Gray		Black		White			

□ 実は, これらの色は CMYK モデルでも出力できます . たとえば Mulberry は次の配色比率です .

```
\definecolor{MB}{cmyk}{0.34,0.90,0.00,0.02}
\textcolor{MB}{\rule{9mm}{2.5mm}}
```



上の 67 色すべての配合比率については [→ [21] p.99] を参照のこと .

2.12 named による色指定

□ 以上述べてきた色の出力命令にオプション引数 [named] を付けると, 2.11 節 (p.9) における 67 の標準色すべての色を指定することができます .

□ 下に例を示します .

□ 色文字 I [→ p.3 (2.2)]

<code>\color[named]{BlueGreen} 平方根 \$x=\sqrt{2}\$</code>	⇒	平方根 $x = \sqrt{2}$
<code>\color[named]{CornflowerBlue} 平方根 \$x=\sqrt{2}\$</code>	⇒	平方根 $x = \sqrt{2}$
<code>\color[named]{BurntOrange} 平方根 \$x=\sqrt{2}\$</code>	⇒	平方根 $x = \sqrt{2}$

□ 色文字 II [→p.3 (2.3)]

<code>\textcolor[named]{BlueGreen}{平方根 \$x=\sqrt{2}\$}</code>	⇒	平方根 $x = \sqrt{2}$
<code>\textcolor[named]{CornflowerBlue}{平方根 \$x=\sqrt{2}\$}</code>	⇒	平方根 $x = \sqrt{2}$
<code>\textcolor[named]{BurntOrange}{平方根 \$x=\sqrt{2}\$}</code>	⇒	平方根 $x = \sqrt{2}$

□ 色ボックス [→p.4 (2.4)]

<code>\colorbox[named]{BlueGreen}{平方根 \$x=\sqrt{2}\$}</code>	⇒	平方根 $x = \sqrt{2}$
<code>\colorbox[named]{GreenYellow}{平方根 \$x=\sqrt{2}\$}</code>	⇒	平方根 $x = \sqrt{2}$
<code>\colorbox[named]{SeaGreen}{平方根 \$x=\sqrt{2}\$}</code>	⇒	平方根 $x = \sqrt{2}$

□ 色ボックスに色文字 [→p.5 (2.5)]

```
\colorbox[named]{BlueGreen}{\textcolor[named]{Sepia}{平方根 $x=\sqrt{2}$}}
```

↓

平方根 $x = \sqrt{2}$

```
\colorbox[named]{SeaGreen}{\textcolor[named]{Mulberry}{平方根 $x=\sqrt{2}$}}
```

↓

平方根 $x = \sqrt{2}$

```
\colorbox[named]{Maroon}{\textcolor[named]{Purple}{平方根 $x=\sqrt{2}$}}
```

↓

平方根 $x = \sqrt{2}$

□ 色枠付きの色ボックス [→p.5 (2.6)]

<code>\fcolorbox[named]{Orchid}{Apricot}{平方根 \$x=\sqrt{2}\$}</code>	⇒	平方根 $x = \sqrt{2}$
<code>\fcolorbox[named]{Tan}{Cyan}{平方根 \$x=\sqrt{2}\$}</code>	⇒	平方根 $x = \sqrt{2}$
<code>\fcolorbox[named]{Violet}{Salmon}{平方根 \$x=\sqrt{2}\$}</code>	⇒	平方根 $x = \sqrt{2}$

参考文献

- [1] P. Abrahams, K.A. Hargreaves, and K. Berry. 『TeX for the Impatient』. Addison-Wesley, 1990. (渡辺了介 訳.『明解TeX』.アジソン・ウェスレイ, 1997).
- [2] D.J. Buerger. 『L^AT_EX for Scientists and Engineers』. McGraw-Hill, Inc, 1990. (引地信之, 引地美恵子 訳.『逆引き L^AT_EX』.マグロヒル, 1992).
- [3] V. Eijkhout. 『TeX by Topic』. Addison-Wesley, 1992. (富樫秀昭 訳.『TeX by Topic : TeX をより深く知るための 39 章』.アスキー, 1999).
- [4] M. Goossens, F. Mittelbach, and A. Samarin. 『The L^AT_EX Companion』. Addison-Wesley, 1994. (アスキー 訳.『The L^AT_EX コンパニオン』.アスキー, 1998).
- [5] M. Goossens, S. Rahtz, and F. Mittelbach. 『The L^AT_EX Graphics Companion』. Addison-Wesley, 1997.
- [6] A. Johnstone. 『L^AT_EX Concisely』. Ellis Horwood Limited, 1992. (鷺谷好輝, 阿瀬はる美 監修, 山内厚子, 河原林美子 訳.『L^AT_EX コンサイスブック』.ブレンティスホール, 1994).
- [7] D. E. Knuth. 『The TeX book』. Addison-Wesley, 1984. (斎藤信男 監修, 鷺谷好輝 訳.『TeX ブック (改訂新版)』.アスキー, 1992).
- [8] L. Lamport. 『L^AT_EX: A Document Preparation System, 2nd edition』. Addison-Wesley, 1994. (阿瀬はる美 訳.『文書処理システム L^AT_EX』.アスキー 1990).
- [9] J. K. Shultis. 『L^AT_EX Notes : Practical Tips for Preparing Technical Documents』. Prentice Hall, 1994. (鷺谷好輝, 阿瀬はる美 監訳, 河原林美子, 内山厚子 訳.『L^AT_EX 実用ハンドブック』.ブレンティスホール, 1995).
- [10] N. Walsh. 『An Excerpt From Making TeXwork』. O'Reilly & Associates, 1997.
- [11] 青山耕治, 霜山滋, 仲道嘉夫. 『L^AT_EX 2_ε パワーガイド』. 秀和システム, 1998.
- [12] アスキー. 『明解 L^AT_EX リファレンス』. アスキー, 1995.
- [13] 阿瀬はる美. 『てくてく TeX (下)』. アスキー, 1994.
- [14] 阿瀬はる美. 『てくてく TeX (上)』. アスキー, 1994.
- [15] 磯崎秀樹. 『L^AT_EX 自由自在』. サイエンス社, 1992.
- [16] 伊藤和人. 『L^AT_EX トータルガイド』. 秀和システム, 1991.
- [17] 今井豊. 『L^AT_EX エラー マニュアル』. カットシステム, 1994.
- [18] 奥村晴彦 監修, 今井康之, 刀狩宏三郎, 美吉明浩. 『L^AT_EX スタイル・マクロ ポケットリファレンス』. 技術評論社, 1997.
- [19] 奥村晴彦. 『L^AT_EX 2_ε 美文書作成入門』. 技術評論社, 1997.
- [20] 小国力. 『L^AT_EX の基礎』. サイエンス社, 1998.
- [21] 乙部巖己, 江口庄英. 『pL^AT_EX 2_ε for Windows: Another Manual, Vol. 2 (Extended Kit)』. ソフトバンク, 1997.
- [22] 乙部巖己. 『pL^AT_EX 2_ε for Windows: Another Manual, Vol. 0 (Upgrade Kit)』. ソフトバンク, 1998.
- [23] 乙部巖己, 江口庄英. 『pL^AT_EX 2_ε for Windows: Another Manual, Vol. 1 (Basic Kit 1999)』. ソフトバンク, 1998.
- [24] 小林道正, 小林研. 『L^AT_EX で数学を』. 朝倉書店, 1997.
- [25] 嶋田隆司, 大野義男監修. 『L^AT_EX スーパー活用術』. オーム社, 1995.
- [26] すずきひろのぶ. 『やさしい L^AT_EX のはじめかた』. オーム社, 1991.
- [27] 中野賢. 『日本語 L^AT_EX 2_ε ブック』. アスキー, 1996.
- [28] 野寺隆志. 『楽々 TeX』. 共立出版, 1990.

- [29] 野寺隆志. 『もっと *AMSTMTeX*』. 共立出版, 1993.
- [30] 藤田眞作. 『化学者・生化学者のための *L^AT_EX*』. 東京化学同人, 1993.
- [31] 藤田眞作. 『*L^AT_EX* マクロのハ衝』. アジソン・ウェスレイ, 1995.
- [32] 藤田眞作. 『*L^AT_EX* 本づくりのハ衝』. アジソン・ウェスレイ, 1996.
- [33] 藤田眞作. 『*L^AT_EX 2_c* 階梯』. アジソン・ウェスレイ, 1996.
- [34] 藤田眞作. 『*X^YMT_EX–Typesetting Chemical Structural Formulas–*』. Addison–Wesley, 1997.
- [35] 藤田眞作. 『続 *L^AT_EX 2_c* 階梯・縦組編』. アジソン・ウェスレイ, 1998.
- [36] 平松惇, 松島康, 山川純次. 『例題でまなぶ *L^AT_EX*』. 培風館, 1995.
- [37] 宮原玄. 『実例による *L^AT_EX* 入門』. 森北出版, 1997.